

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

令和 6 年度大阪市小学校学力経年調査では、全学年、すべての教科で大阪市の平均正答率を下回っている。授業に対しての意欲や好感度は中・高学年とも、大阪市の平均と同等の教科（社会・英語【外国語】）も見られるが、国語・算数では下回っている（国語 - 12P、算数 - 8P）。

また、令和 6 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、体力合計点が男女とも、大阪市の平均を下回っている。学校の授業以外での 1 週間の総運動時間が 60 分未満の児童の割合が大阪市の平均より大きいことからも、体を動かす機会が少ないことが課題である。学校における体を動かす機会の十分な確保や自ら運動する楽しさを味わわせる機会の設定等が必要である。

令和 6 年度の小学校学力経年調査の児童質問紙では、「学校のきまりを守っている」と回答した児童は 88 % である。しかし、日常的なもめごとも少なからずあり、「学校に行くのは楽しい」と回答した児童は 78.4 % である。遅刻や不登校児童も少なくなない。「自分にはよいところがある」と回答した児童も 73.6 % と決して高くない。

## 中期目標

## 【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないとだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90 % 以上にする。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85 % 以上にする。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90 % 以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 令和 7 年度末の小学校学力経年調査の「自分には、よいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 75 % 以上にする。

## 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査の平均正答率 7 割以下の児童を、いずれの学年も令和 3 年度より 2 ポイント減少させる。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができます」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 33 % 以上にする。
- 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和 3 年度より 2 ポイント向上させる。※全国平均を 1 とした時の割合
- 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に回答する児童の割合を 63 % 以上にする。

### **【学びを支える教育環境の充実】**

- 令和7年度末の校内調査における「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と回答する児童の割合を100%にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を、令和7年度末に85%にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査における「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### **【安全・安心な教育の推進】**

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。(R5 71.4%、R6 71.8%)
- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R5 74.5%、R6 78.4%)
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。(R5 69.0%、R6 73.6%)

### **【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を33%以上にする。(R5 29.0%、R6 31.4%)
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。(R5 57.8%、R6 64.0%)

### **【学びを支える教育環境の充実】**

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕(R5 約3割/日、R6 約6割/日)
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を、98%にする。(R5 81.5%、R6 97.4%)

## 3 本年度の自己評価結果の総括

## 大阪市立薺田小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 90 %以上にする。</li> <li>○ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85 %以上にする。</li> <li>○ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75 %以上にする。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容① 【基本的な方向番号 1、安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめの未然防止・早期発見、早期対応の取組を組織的に行う。</li> <li>・ いじめの早期対応における校内研修等を実施する。 (いじめへの対応)</li> <li>・ 児童どうしのつながりを増やす取組を行うとともに、不登校児童に対するアプローチを継続して行う。 (不登校への対応)</li> </ul>	
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童が毎日、自分の気持ちを学習者用端末に入力する「心の天気」を活用し、回答が気になる児童に確実に対応する。</li> <li>・ いじめアンケートを学期に 1 回以上実施し、いじめの早期発見に努める。</li> <li>・ 高学年において非行防止教室を実施するとともに、道徳の学習や学級活動において、いじめ防止や集団育成の授業を年 3 回行う。</li> <li>・ 児童どうしのつながりを増やすためにたてわり班活動等を月 1 回以上行う。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容② 【基本的な方向番号 2、豊かな心の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童が自己肯定感を高め、他者への理解や思いやりの気持ちが育つような取組を行う。 (仲間づくり)</li> <li>・ 各学年において、互いにちがいを認め合い個性を伸ばす取組、国際理解、平和学習、インクルーシブ教育を行い、全体で共有する。 (国際理解・平和学習・インクルーシブ教育の推進)</li> </ul>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポジティブ行動支援に取り組む。</li> <li>・ 国際理解、平和学習、インクルーシブ教育に関わる取組を全学年で実践する。</li> <li>・ 小学校学力経年調査の項目において、「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。</li> </ul>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

- ・ 心の天気の学習者用端末の入力率を掲示することで、各学級の入力を促している。
- ・ いじめアンケートは学期に1回以上実施することができている。また、校内研修も5月に実施することができた。
- ・ 高学年を対象とした非行防止教室を実施することができた。また、いじめ防止や集団育成の授業については、各学級で「いいところ見つけ」、「フワフワ・チクチクことば」などの授業に取り組むことができている。
- ・ たてわり班活動は1学期の前半は月1回以上実施することができたが、気温が高くなるにつれ、熱中症対策等の関係で実施が難しくなった。運動場や講堂でする以外の活動で児童どうしのつながりを増やす方法を考えていきたい。
- ・ 不登校児童については、定期的に連絡をとるようにしているが、連絡が取れない児童もある。
- ・ 1学期にポジティブ行動支援の強調週間を設けて取組を行った。
- ・ それぞれの学年で年間指導計画に沿って、三本柱(国際理解・平和学習・インクルーシブ教育の推進)を中心にして取組を実践している。

#### 今後の取組や改善点

- ・ たてわり班活動については、気候に変動されることもあるが、なるべく運動場で児童集会を実施する。
- ・ 不登校・いじめについては、引き続き早期発見、早期対応に努める。
- ・ 生活指導・人権研修を11月に予定している。
- ・ 三本柱(国際理解・平和学習・インクルーシブ教育の推進)を中心とした取組を引き続き実践していく。

## 大阪市立荔田小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 33 %以上にする。</li> <li>○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65 %以上にする。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容① 【基本的な方向番号 4、誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の中で友だちと話しあう活動の場を設ける。（話しあう活動の機会の充実）</li> <li>・ 話しあう活動を終えたあとに、ポジティブなフィードバックを行う。 (自己肯定感の向上)</li> </ul>	
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元に 1 回以上、友だちと話しあう活動の場を設ける。</li> <li>・ 活動の後には、話しあう活動を通じて分かったことや気づいたことを発表させたり、ワークシートに書かせたりして、児童の考えが深まることや広がったことを称賛する機会を増やす。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容② 【基本的な方向番号 5、健やかな体の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自ら運動に取り組む児童を育成する。 (体育学習の充実)</li> <li>・ 衛生的な習慣が身につくようにする。 (規則正しい生活習慣)</li> <li>・ 児童の発達段階にあわせた栄養指導を行う。 (食に関する教育の充実)</li> </ul>	
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 縄跳びや持久走の強調週間を設けて、自ら運動する楽しさを味わう機会を増やす。</li> <li>・ 手洗い強調週間を年 3 回行う。また、せいけつ調べ（ハンカチやティッシュを持っているか等）を週に 1 回各学級で行う。</li> <li>・ 月ごとに残食量を計算し、残食を減らしていくような取組を行う。学年ごとに年 2 回栄養指導を行い、給食だよりと食育通信を各教室でも掲示する。</li> </ul>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の中で友だちと話しあう活動を取り入れ、これに対してポジティブなフィードバックを行うことができていた。話しあい活動の場は確保されているが、児童たちが話しあい活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じるためには、指導者側のフィードバックにくふうが必要である。</li> <li>・ 手洗い強調週間は 1 学期に行い、手洗いの習慣化を意識付けることができた。2・3 学期も行う予定である。せいけつ調べにおいては、週 1 回全学級で調べることができてい</li> </ul>

る。残食量については、長期休み明けやメニューによって残食が増えてしまう傾向にある。

#### 今後の取組や改善点

- ・「話しあう活動の場」の態様が、学年に応じて異なるため、これをどのように捉えるかが指標の達成度合いに関わってくる。発達段階に応じた「話しあう活動の場」の態様をある程度具体化する必要がある。
- ・プールの工事終了にともない、縄跳びや持久走の強調週間を今後設定し、運動の機会を増やしていく。
- ・週1回せいいつけ調べはできているが、ハンカチ・ティッシュを忘れている児童が多いので増やす必要がある。
- ・残食量を減らすために、食材に興味をもってもらえるように食材紹介していく動画などを作成し、食べてみようという意欲を高めていく。

## (様式 2)

## 大阪市立荔田小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 % 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕</li> <li>○ 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を、98 % にする。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向番号 6 、教育 D X (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝の業間活動の時間にデジタルドリルに取り組むことを位置づける。 (個別学習の充実)</li> <li>・ 双方向オンライン学習訓練を行い、児童が学校だけでなく家庭においても学習者用端末を活用できる環境を整える。 (ICT 教育の充実)</li> </ul>	<b>B</b>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎週水曜日と、隔週で月曜日をぐんぐんタイムとし、学習者用端末を活用する。</li> <li>・ 年間を通じて学習者用端末を活用できるよう、1 学期に双方向オンライン学習訓練日を設定する。</li> </ul>	
<p>取組内容② 【基本的な方向番号 7 、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員での会議を精選し、パソコンでのネットワークを積極的に活用する。</li> <li>・ 紙媒体への印刷業務を減らし、I C T の活用や教材の共有化を図る。 (働き方改革の推進)</li> </ul>	<b>B</b>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校からの文書は、ミマモルメールで配信する。</li> <li>・ スクールサポートスタッフとの連携を図り、印刷業務にかかる時間を削減する。</li> <li>・ 年間の時間外勤務時間を、教員 1 人あたり 360 時間以内におさめる。</li> </ul>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝の業間活動の時間にデジタルドリルに取り組むことはできた。双方向オンライン学習訓練を行うことで、家庭で学習者用端末を活用できるか確認できた。Wi-Fi などによる通信環境が整っていない家庭に対して、個別にモバイルルーターを貸し出すことで学習者用端末を活用できるようにできた。</li> <li>・ 学校からの文書はミマモルメを活用し、紙の印刷業務にかかる時間の削減やペーパーレスに取り組むことができている。</li> <li>・ 一人あたりの時間外勤務の平均時間(4 ~ 8 月)は昨年度は 24 時間 28 分であったが、今年度は 19 時間 29 分となっている。</li> </ul>

#### 今後の取組や改善点

- ・ 次年度には学習者用端末は原則として毎日持ち帰ることとなるため、これまでとは活用方法が変更される可能性がある。次年度はこの点を考慮したうえで、取組内容や指標を改善していく必要がある。
- ・ 教材の共有化をさらに進めていくことによって、時間外勤務時間の削減につなげていきたい。